

丹邱学舎

＜学校教育目標＞

志をもち、自ら学び、共に高め合い、
たくましく生きぬく西溪っ子の育成

令和4年2月28日(月) 文責 校長 南里美紀江

社会を明るくする運動での意見発表 ～若い力に期待～



先月小城多久地区の「社会を明るくする運動 作文発表会」が開催されました。応募総数251点の中から8名の受賞者が選ばれました。そのうち3名が西溪校から選ばれ、とても誇らしく思っています。今日は、佐賀県保護観察所所長表彰に選ばれた3名、6年梶原さん、7年田栗さん、9年山北さんの作文を要約して紹介します。

○梶原さん「一人一人の心がけ」

元気な母がある時、腰を痛めて今まで普通にしていたことができなくなるのを見て、改めて祖父母の、お年寄りの大変さに気づくことができました。祖父母孝行をできるだけしたい。また、下級生と一緒に乗っている電車の中で、お年寄りに座席を譲り喜んでもらったことと、下級生が自分のことより困っている人を優先して行動できたことが嬉しかった。これからも困っている人がいたら手をさしのべることができる人間になりたい。

母がよく言っている「困っている人がいたら助けてあげてね」の言葉。この言葉をしっかり心にとめて、相手の気持ちに寄りそえる人になりたい。

○田栗さん「明るい社会を実現するために」

私があるニュースをきっかけに犯罪や非行、その立ち直りについて調べ、感じたことを話したい。「犯罪や非行はあってはならないこと」「防止しなければならぬこと」だが、犯罪や非行をしてしまった人たちに対してのいろいろな活動があることを知った。心の底から誤った行動を悔やみ、更正を目指す人たちのために支える存在がある。「保護司」「協力雇用主」「更生保護女性会」「更生保護施設」「BBS会」などで、すばらしい活動をしている。本当に立ち直りを支えるためには、根強い偏見や差別、悪意のある噂は許してはいけない。

犯罪や非行を防ぐために日常でできることは、声かけやあいさつ、コミュニケーションだと思う。身近な人との関係を深めることで犯罪や非行を防ぎ、立ち直りを目指す人への偏見や差別をなくし、地域で支え合い、悩みを相談できる人を作ることで、これからの社会を明るくできると信じる。

○山北さん「小さなことから第一歩」

家族内での挨拶こそ大事だと思うようになった。後期課程になり、以前はしていなかったのに両親と喧嘩をするようになった。その度に挨拶や会話をしなくなってもはじめはなんとも思っていなかったが、道徳の授業で「家族と交わす挨拶」について学習して意識が変わった。家族と挨拶や会話をしなくなると、毎日がつまらなくてずっとモヤモヤしている。そのことで、挨拶の大事さと何気ない毎日に必要なものだと感じた。

挨拶はコミュニケーション、相手の気分や調子を察する、会話を増やせる等の力を持っている。家族内だけでなく地域の人や友だちとの挨拶も大事だ。挨拶が広がる世の中になったら、犯罪が減り社会が明るくなると思う。

私には尊敬している人がいる。毎朝、登校を見守りながら挨拶をしてくれる地域の方である。児童生徒や車の人に挨拶をし続け、返してくれなくても決して挨拶をやめない姿を「すごい、カッコいい」と思う。まずは家族に「おはよう」「ってきます」と言い、学校では友だちや先生に元気に「おはよう」と言って、楽しい一日のスタートを切りたい。そして、小さなことから前へ第一歩を進んでいけるよう頑張りたい。

三人とも、身近な出来事や人との関わり方から、社会の仕組みやこれから目指したい社会について、自分の考えを述べてくれました。このように、世の中のことを自分のこととして考える姿勢はとても大切で、社会に出るために必要な資質のひとつです。彼らの意見を、今度は自分と比較して考えたり、自分の行動に取り入れて、大人としての成長につなげてほしいと思います。



目的を持った目標を立てよう！全校朝会の話より

目標を立てるときに大切にしてほしいのは、その目的を明確にすることです。「ウサギとカメ」の話で、本当は断然足が速いウサギが昼寝をしたせいで、カメに負けてしまった原因を考えました。ベストを尽くすを目的としたカメと、カメに勝つことを目的としたウサギ。ゴール地点という目標は同じでも、目的の違いで油断が生じたり、努力を続け目標を達成したりと結果が違ってきます。目の前の身近なことから目標を立てることは大事です。その時に、先を見通して「何のために」を見つけて、目標を段階的に立てていけるとよいですね。それこそが、西溪校が目指す「志を立てる」と言うことです。

